



### 熊谷恒子 略年譜

1893年1月28日	京都・江馬章太郎の次女として生誕
1914年	熊谷幸四郎と結婚。京都から東京へ転居
1928年	川北桜嶼に師事
1930年	尾上柴舟に師事
1931年	岡山高蔭に師事
1933年	泰東書道院展 東日・大毎賞受賞
1936年	馬込に居を構える（当記念館）
1951年	日本書道美術院理事に着任
1956年	大東文化大学講師に着任 （1967年教授に着任、1975年退職）
1957年	第一回現代書道二十人展に出品
1965年	皇太子妃美智子殿下への書道ご進講を拝命
1980年	勲四等宝冠章受章
1986年9月30日	永眠（93歳）

## 出品目録

### 【熊谷恒子所用の書道具】

- ①《水鳥形水盂》
- ②《南瓜形書鎮》
- ③《紫端溪雲龍硯》
- ④墨（好古、龍賓）、朱肉
- ⑤筆（神品起龍、山馬筆  
黒面相、清真）
- ⑥麦藁細工硯箱

### 【熊谷恒子の愛用品】

- ①三村秀竹《書道史入門》春潮社、1950年
- ②熊谷恒子『いろは帖』五禾書房、1957年
- ③熊谷恒子「いろは歌（草稿）」
- ④熊谷恒子「いろは歌（原稿）」
- ⑤『書の古典と理論 全国大学書道学会』  
光村図書、2020年

## 熊谷恒子と「いろは歌」

「いろは歌」は、「色は匂へど散りぬるをわが世誰ぞ常ならむ有為の奥山今日越えて浅き夢見し酔ひもせず」という四十八字を使って詠まれた詩歌です。かな書の基礎である「いろは」について、恒子は「わずか四十八文字で、見た目にはむずかしそうに思われませんが、さて書いてみると直線、曲線、筆のとめ方、筆の力の抜き方、筆圧の強弱、細かく研究すればさすが基本だけあって、書に関するすべての掟が備わっています」（註1）と述べています。

註1 熊谷恒子『書道 かな—基礎から創作まで—』マコー社、1978年

## 大田区所蔵作品選「地域の美術を掘り起こす / 読み替える」

当館1階において、区所蔵作品を厳選した企画展を開催しています。

あわせてご覧ください。

会期：2026年2月1日（日）～5月10日（日）